

文京区の人と地域をつなぐ情報誌

第二号

文京人



2020年撮影 文京区立明化小学校

文京人インタビュー

文京区高齢者大学生の会 会長 稲葉浅治さんに聴く

文京区は歴史があり、 いつから学んでも楽しい

——会を設立された経緯を教えてください。

私は平成14年に、文京区高齢者大学に入りました。これは文京区が主催する3年制の講座で、歴史や文学、社会など、自分が学びたいコースを選んで毎週1回、2時間ずつ勉強します。せつかく3年間一緒に学んだのに、大学が終わると「さよなら」では交流が深まりません。そこで、自分たちで生涯学習を続けて仲間同士の親睦を図っていくこうと、私たちの同期会から始めて、その後、先輩や後輩も参加して「文京区高齢者大学生の会」という名称で活動するようになったのです。

ところが、卒業して間もない平成20年頃、行財政改革で高齢者大学が廃止になると聞きました。これから高齢者がますます増えてくるので、ぜひ存続してほしいと署名活動を始めました。賛同いただいた約500名の署名を持参して区長に直訴した結果、文京アカデミーの「いきいきアカデミア」という2年制の高齢者大学として存続することになりました。

いきいきアカデミアは、文京区内在住の60歳以上の人を対象とした大学で、1年目は全員が同じカリキュラムを学ぶ教養課程、2年目は選択制の専門課程です。今は、その卒業生たちが私たちの会に入ってくれています。



七福神めぐり【浅草名所（などころ）七福神】



稲葉浅治さん（文京区高齢者大学生の会会長）

1936年埼玉県生まれ。大学卒業後、メーカーに勤務し、経理・企画・資材関係等の業務に携わる。1974年より文京区に在住。リタイア後の2002年、文京区高齢者大学（現・いきいきアカデミア）に入学し、在学中に「平成14年度文京区高齢者大学生の会」を設立。OB会として、さまざまな生涯学習や交流のための活動を続けている。趣味は旅行で、特に海外はコロナ禍前の2019年までに、通算86回の旅行をしている。

—— 会では、どんな活動をされていますか？

年間20回くらいの行事があり、毎月の月例会のほか、1月は七福神めぐり、3月は文学散歩、5月は史跡めぐり、7月は夏の講演会と暑気払い、9月は社会科見学、10月は「修学旅行」と称して1泊2日の温泉バス旅行、12月は冬の講演会と忘年会を開いています。

たとえば、社会科見学では国会や新聞社を訪問したり、文学散歩では鎌倉文学館など文豪ゆかりの地をみんなで散策したりと、楽しみながら学べる企画になるよう工夫しています。

月例会や総務や会計等は有志のボランティア役員が20名位いて、一緒に運営していく中で、活動の企画については今のところ全部私が行っています。会員の皆さんの意見や要望を日頃からいろいろ聞いておき、プランを具体化するのには私ひとりで行っている形です。

会員を連れて行く前に事前調査は欠かせませんし、訪問先との細かい調整に苦勞することもあります。現役の頃も企画関係の仕事が多かったので、そういう世話役は割と性に合っているみたいですね（笑）。参加者に喜んでもらえる企画を立案したいと、いつも新しい情報を探してアンテナを張っています。



修学旅行【那須高原】

——会を設立して、今年で20周年ですね。現在の会員数や、入会資格、会費などについて教えてください。

会員数は約120名で、女性が6割、男性が4割くらい。最高齢は男性で95歳、女性が92歳です。会員からの紹介があれば、いきいきアカデミアの卒業生でなくても、また、文京区民でなくても会員になります。そういう方が1割ほどいらっしゃいます。

年会費は1000円で、社会科見学や修学旅行などの行事に関しては都度会費で、自分が興味のあるものだけ参加してもらえばいいという形をとっています。行事によっても違いますが、参加する人は会員の4〜5割くらいになります。

——これから地域活動を始めようとする人へのメッセージがあれば、お聞かせください。

私自身は、働けるうちは働こうと73歳までサラリーマンを続けました。仕事の最前線から少し退いたとき、「自分が住む文京区のことをもっと勉強して地元知り合いをつくりたい」と思ったのが、高齢者大学に入学したきっかけでした。

まずは「家から出る」ことが大事。女性は積極的な人が多い印象ですが、男性はなかなか大変なようです。でも、そんな人こそ、現役時代の肩書を捨てて、地域に出て欲しいと思います。

——稲葉さんが感じる文京区の魅力は、どんなところですか？

文京区は歴史があります。史跡、神社仏閣、文化財もたくさんあり、年を取ってから学ぶのにいいところですね。

60歳以上の方でしたら、いきいきアカデミアに入学して、文京区のことを中心に2年間じっくり勉強してもらいたいと思いますね。第1学年の教養課程では「区政をもっと知ろう」「文の京をもっと知ろう」「高齢期をいきいき生きよう」の3テーマで各8回の講義を受けます。計24回のうち7割を出席すると進級でき、第2学年の専門課程では、文京アカデミア講座や文京ミューズネットから好きなものを選んで合計20単位を勉強すれば、晴れて卒業です。

私自身もそうでしたが、特に男性は、現役時代は職場と家を往復する生活で、地元のことには疎い人が多いと思います。こうして知識や見聞が増えれば、自分が暮らしている文京区の魅力がわかり、愛着も増すでしょう。私たちの会以外にも、いろいろなサークルや地域活動があることも知れて、今後の人生にいい影響を与えてくれると思います。



稲葉浅治さん（中央）と『文京人』編集部

△店長が素敵なの△とっておきの庭園レストラン

オリエント・カフェ

店長 高須真理さんに聴く

江戸時代に造園された「六義園」は、明治になり岩崎彌太郎が買い上げ、今は都立公園として文京区民の憩いの場になっています。その近くに、長男である岩崎久彌が設立した蔵書数100万冊の「東洋学研究図書館」があります。10年前に「東洋文庫ミュージアム」として公開され、そこに併設されたのが、今回ご紹介するへ魅力的な方△が営む庭園レストラン「オリエント・カフェ」です。



東洋文庫とオリエント・カフェを結ぶ「知恵の小径」



オープン時の文庫ランチ「マリーアントワネット」



小岩井牛ステーキ(写真左) / 小岩井牛100%ハンバーグ(写真右)

こちらのお店では、岩崎久彌が事業の礎を築いた小岩井農場の牛肉や乳製品など、安全・安心な食材にこだわり提供しています。毎期テーマが変わる年3回の企画展(※)に合わせて、オリジナルメニューを工夫しています。ミュージアム見学の後には、「御免あそばせ、お世話になります」とお客様が次々と入って来ます。表通りに目立つ看板もない店に常連客を惹き付けるのは、店長の高須真理さんです。

(※)取材時には「シルクロードの旅」が開催中

高須さんは短大を卒業後に中東に語学留学し、そのまま現地で仕事をしていたら、湾岸戦争が始まってしまいました。計り知れない経験をも胸に帰国後も様々な波瀾万丈があり、恋に破れた彼女は、求人誌で見つけた小岩井農場が経営する丸ビルのレストランで時給950円のアルバイトとして働き始めました。彼女の頑張りと同僚や上司も認めるところとなり、契約社員を経て正社員になります。



高須真理さん（オリエント・カフェ店長）

その後「駒込にできる新店舗『オリエント・カフェ』へ異動してくれ」と頼まれ、戸惑いはありましたが、「店内にグラランドピアノがあり、自由に弾けるのはいいなあ」と思って引き受けたそうです。それから10年、数多くのお客様やスタッフ、関係者の方々に恵まれ、昨年からは都内4店舗を仕切る代表取締役社長になりました。

彼女のホスピタリティは、スタッフ全員に共有されています。「どの店員さんが接客しても心地いいよね」とお客様に言われることが、自分が褒められるよりも何より嬉しいそうです。「文京区のお客さんは素晴らしい方ばかりです。地域の方に愛されて育てていただいたお店だと思っています。いつまでもご愛顧くださいね」と微笑む高須さん。

六義園の桜の時期や紅葉の時期には、数カ月前から予約が入り、中庭を見ながら余韻に浸り、お食事を楽しまれる方で満席だそうです。みなさんも是非、素敵な店長に会いに訪れてみてはいかがでしょうか。



副店長（写真右）とシェフ（写真左）と一緒に

オリエント・カフェ produced by 小岩井農場

東京都文京区本駒込2-28-21
公益財団法人東洋文庫内

[ご予約・お問い合わせ]

TEL 03-3942-0400



■ 表紙の写真

明治7年に創立された文京区立明化小学校の、関東大震災後の昭和5年に建てられた木造校舎の写真です。曲線を取り入れたアーチ状の天井、丸柱、木製の廊下、石と木でできた階段などが特徴で、長年親しまれてきました。現在改築工事が進んでおり、令和8年には新校舎が完成する予定です。

■ 写真提供.. (表紙) 文京区立明化小学校

(本文) 文京区高齢者大学生の会

オリエント・カフェ

■ 題字作者.. 上村正子

■ 誌名『文京人』に込めた想い

「文京人」と聞いてどのような人を皆さんは思い浮かべますか。文京区にお住まいの方、仕事で通勤をしている方、文京区で活躍されている方・・・いろいろな人が当てはまるのではないのでしょうか。

私ども編集部はそういった文京区に関わり、「文京区を愛する人」さらにはこれから「文京区を愛してくれる」方々に向けた情報誌で文京区の人と地域をつなげたい、そのような思いを込めて、『文京人』という誌名を付けました。

—— 編集後記

文京区に住むミドルシニアによるミドルシニアのための情報誌第二号をお届けいたします。

文京区にゆかりの深いミドルシニアの魅力的な生き方を取り上げるほかに、今回からは魅力的な人物のいるお店を紹介するコラムが誕生いたしました。文京人の物語にふれていただいたことをきっかけに地域に関心を持ち、暮らしに生かしていただけたらと思います。文京区の人と人、人と地域を近づけていくことに少しでも貢献できれば幸いです。

今後も地域情報誌として、よりよく面白く発展していけるように努力してまいりますので、ご意見等がございましたら編集部までお電話にてお寄せください。

文京区の人と地域をつなぐ情報誌『文京人(ぶんきょうじん)』第二号
企画編集

『文京人』編集部(二針源一郎/城川佳子/村田正江)

発行.. 社会福祉法人武蔵野会 リアン文京

発行日.. 2022年4月30日

お問い合わせ先

社会福祉法人武蔵野会

文京福祉センター江戸川橋

電話.. 03-5940-2901



オリエントカフェ取材時

無断転載禁止